





令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 I・II 】
2 実施対象者	石巻市立貞山小学校 第5学年1組 26名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他(総合的な学習の時間「地域の福祉について考えよう」)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 育てた花を地域に届ける活動を通して、地域のためにできることをしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 自分たちが石巻市の発展に寄与していることを実感させる。</p>
5 取組内容	<p>(1) 花の苗を育てる。〔R3.10.30〕</p> <p>(2) 花壇やプランターに定植する。〔R3.11.6〕</p> <p>(3) 石巻市総合運動公園に花の贈呈〔R3.12.13〕、 貞山地区の一人暮らしの高齢者に花を届ける。〔R4.1.24〕 陸前山下駅に花の贈呈〔R4.1.26〕</p>
6 主な成果	<p>(1) 石巻市総合運動公園、貞山地区の一人暮らしの高齢者、陸前山下駅に、自分たちが育てた花を贈って喜ばれることにより、児童は満足感を得ていた。</p> <div>   </div>



	<p>(2) 1964 年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台があった石巻市総合運動公園に花を贈ることにより、オリンピック・パラリンピックや地域スポーツに自分たちが花を添える形で参加しているという意識をもたせることができた。</p>  
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 石巻市総合運動公園を訪れ、見学することにより、オリンピック・パラリンピックを身近に感じさせることができた。</p> <p>(2) 石巻市総合運動公園に、自分たちが育てた花を置いてもらうことにより、自分たちも石巻市と一緒にスポーツの発展に向けて活動しているのだという意識をもたせることができた。</p>
8主な課題等	<p>(1) 石巻市総合運動公園を訪れるのは1回のみである。継続して花を世話させることにより、ボランティア精神を意識させることができる考える。</p> <p>(2) 花を贈る活動は、どうしても費用がかかる。地域の福祉に貢献する活動として、費用があまりかからない活動も考えていく必要がある。</p>
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の総合的な学習の時間「地域の福祉について考えよう」は、来年度以降も行う予定である。石巻市総合運動公園にも、費用を捻出して、花を贈り続けていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	石巻市立貞山小学校 第3学年1組 29名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他(総合的な学習の時間「障害者スポーツを理解しよう」)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	(1) オリンピック・パラリンピック種目であるボッチャを体験し、障害者の生き方や共生について理解を深める。
5 取組内容	<p>(1) 障害者スポーツについて調べる。</p> <p>(2) 講師の先生からボッチャについて教えてもらい、実際に体験をしてみる。</p> <p>(3) 体験したことを生かし、障害者スポーツについてまとめる。</p>
6 主な成果	<p>(1) 講師の先生から、投球の仕方や得点の数え方など基本的なルールを教えてもらい実際にゲームを行った。実際に体験することで、ボッチャという競技の楽しさや奥深さを学ぶことができた。</p> <div>   </div>

	<p>(2)「ボッチャ」について教えていただいたことで、障害のある方でも、ルールを工夫すればみんなで楽しめるスポーツであることや、スポーツを通して障害者と健常者が一緒に楽しめることができるということを学んだ。</p> 
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 事前に障害者スポーツについて、調べることで興味をもって活動ができるようにした。</p> <p>(2) 地元の社会福祉協議会の方に講師をお願いした。地域の方にお願いできたことで、スムーズに活動に取り組めた。</p> 
8主な課題等	<p>(1) コロナウイルス感染症の影響により、実施に向けて配慮することが様々あった。今後も感染防止に努めながら実施する必要がある。</p> <p>(2) 今回の体験を一過性のものにせず、体験したことを今後の生活に生かしていけるような取組を考えていきたい。</p>
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の総合的な学習の時間「障害者スポーツを理解しよう」は、来年度以降も行う予定である。社会福祉協議会の方からご指導いただきながら活動を続けていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

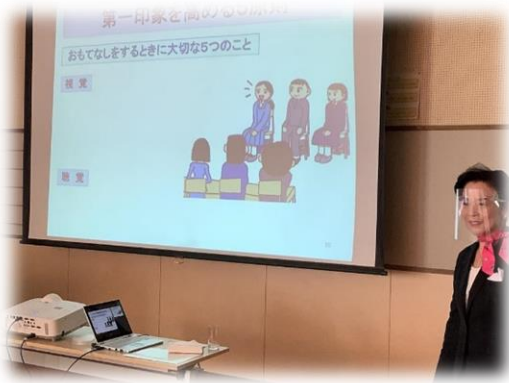
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	石巻市立貞山小学校 第6学年1組 26名 保護者・地域5名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他(総合的な学習の時間「おもてなし講座」)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	世界各国の人々と互いの良さを認め合いながら関わり、さらに日本の文化や慣習のよさについても誇りに感じながら生活できるよう「おもてなしの心」を学ぶ。
5 取組内容	<p>○ おもてなし講座〔R3. 12. 14〕</p> <p>筑波大学客員教授(元日本航空客室乗務員)江上いずみ先生をお招きし、おもてなしの心構えと作法について教えていただいた。</p> <p>(1) グローバルマナーとおもてなしの心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしとは「相手に喜んでもらうために心を尽くすこと」 ・表情、態度、身だしなみ等は3～5秒で理解される。 ・あいさつは、『分離礼』が望ましい。耳が聞こえない人は、口の動きで話していることを理解する。 ・握手は、上位者、年長者が先に手を出す。女性が手を出すまでは、男性からは出さない。 ・ノックは3回以上が国際標準である。



	<p>(2) 客室乗務員の仕事をとおして</p> <ul style="list-style-type: none"> • 100人の乗務員がいて、1人がお客に不快な思いをさせると他の99人も同じように思われる。$100-1=0$になってしまう。その「1」にはならないようにしなければならない。 • 「気付き」と「言葉掛け」が大切。常に対応と共にプラスαの心遣いが必要。 • 「お願いします」「ありがとう」が日本人は不得意に見える。 
6 主な成果	<p>(1) おもてなしの心や接遇、国際的なマナーについて具体的に教えていただいたことで、児童は普段の自分の生活態度を振り返り、改めていかなければと感じていた。</p> <p>(2) 大切な存在として接していただくことの良さを感じ、自分も江上先生のように、心遣いと笑顔で友達に接していきたいと考える子が増えた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 思春期の入り口で、家族や友達等身近な人に対して、なかなか素直な態度をとることが難しくなってきた第6学年児童を対象にお話していただいた。</p> <p>(2) 90分間(2コマ)の時間で、お話していただいた。講義だけでなく、簡単な体験活動も取り入れていただいたことが児童にとって理解しやすかったようだ。</p>
8 主な課題等	<p>(1) 江上先生から教えていただいたことを普段の生活の中でどのように生かしていくか考えていきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 機会があれば、おもてなし講座を児童・保護者・地域方対象に引き続き実施していきたい。</p>